

# 和服ミニチュアで再生

## 一色高 3年生 「姫きもの」講習会



吉野孝子さん(右)による手ほどきで「姫きもの」を作る生徒たち

県立一色高校生活デザイン科3年生のファッションデザインコースで学ぶ20人が7日、「姫きもの」の製作を学んだ。物をほどこき、洗い、干し、アイロンかけといった作業を尊重し、気持ちを育て、

和服製作の専門的な知識と技術を習得させようとする。卒業作品として「姫きもの」を製作しており、国内の高校では珍しい取り組みという。

この日は、「姫きもの」を考案した名古屋熱田区の古製(こざれ)美術工房の吉野孝子代表による指導のもと、「姫きもの」を製作。豪華な刺しゅうや染め柄のある着物をほどこき、仕立て直す作業を行った。

着物には自立つ柄を下部に置いて上部に余白を設けるなど、柄の配置に美意識があり、ミニチュアにした際もそうしたセオリーを崩さないよう仕上げた。

また、本年度は同コースに男子もいることから、男性用着物のミニチュアも製作。ウルトラマンの人形にさせることを想定して仕上げた。

吉野さんは「高校生が振袖など着物に触れる機会は少ないと思うので、それをほどこくことで着物の仕組みも分かり、衣類を大切に思う気持ちも芽生えると思う」と話していた。

作品は秋の文化祭や11月20日の創立70周年式典、来年1月の卒業作品発表会で展示される。

### ドールハウスも

8日には、同科3年生

39人を対象に「ドールハウス」の講習会が行われた。

知立文化センターの田島ひとみさんを講師に迎え、15分の縮尺で家具や窓、内装といった家の中の生活空間を表現しようとして、インテリア配置の基本を学んだ。

出来上がったドールハウスは、来年1月の卒業作品発表会で展示する。